



学校だより

# とき・あかし錦城

2021年(令和3年)  
7月7日(第76号)  
明石市立錦城中学校

## 時代をつくるのは若い人たち

校長 谷郷昌弘

梅雨本番の季節となりました。今年は梅雨入りが記録的な速さ(近畿地方は5月16日でした)で、どれほど雨がふるのだらうと思っていましたが、実際には晴れた日が多かったですね。しかし、梅雨は後半に入ってから雨量が増えます。終わりごろには大雨が降ったりもします。明石は災害の少ないところと言われますが、油断大敵。日頃の備えを怠らぬよう心したいものです。

また、熱中症にも警戒が必要です。夏の暑さは以前とは明らかに違ってきています。こまめに給水し、無理のない活動がなによりも大切です。

新型コロナウイルス感染症予防の取組も2年目に入りました。ニュースでは「コロナ疲れ」や「自粛も限界」といった言葉も聞きます。しかし、学校内では、生徒の皆さんは1年前と変わりなく感染予防に徹した行動をとってくれています。活動に様々な制約が伴う中、ほんとうにルールをよく守ってやってくれていると感謝の気持ちです。これからも気を緩めず取り組んでいきましょう。

さて、昨年度から始めた「学校のきまり」を考える取組ですが、生徒会・PTA・教員で考えた原案について検討してもらう時間を持ちました。みなさんの意見はどうでしょうか。結論がどう出ようと、一人ひとりが自覚をもって「きまり」を守る気持ちが大切です。「させられている」から「自らする」と意識が変わるためには、なぜその「きまり」があるのかをよく理解することが欠かせません。疑問に思うことがあれば、質問しましょう。そうして、みんなが納得して、進んで守っていける「きまり」にしましょう。

「世界は誰かの仕事でできている」まったくそのとおりです。そしてあなたも今現在、世界をつくっています。これからの日本の姿がどうなっていくかを決めるのは、若いあなたたちです。世の中は常に変化します。どう変わるか、ではなく、どう変えるか、という視点でものごとを見てください。大人の言うことが全て正しいなどということはないのです。

## 戦争の季節に思う

日本にとって夏は戦争の記憶と結びつくことの多い季節です。

8月15日の終戦の日、8月6日の広島原爆の日、8月9日の長崎原爆の日などは毎年大きく取り上げられ、慰霊の式典を放送したり特集番組が組まれたりします。太平洋戦争末期には日本中いたるところで空襲があり、たくさんの人命が失われました。



また、近年取り上げられることが増えてきた「沖縄戦」は県民の犠牲者が12万人以上という激しい地上戦でした。日本軍の組織的抵抗が終わった6月23日は「沖縄慰霊の日」として毎年式典が開かれます。

日本が戦争の道へと突き進んでいった歴史は学校の授業での学習だけでなく、いろんなメディアで見聞きするところ。そして、私たちは思うのです。「なんてバカな戦争をしたのだらう。当時の社会はどうなっていたのだらう。当時の国民はどう考えていたのだらう。」と。また、「自分だったら戦争に賛成などしない。命より大切なものはない。」と思ったりもします。

しかし、最近思うのです。当時自分が中学生だったら、戦争を否定する考えを持ったかどうか。進んで戦争に協力し、自ら志願して兵隊さんになろうと思ったのではないかと。

今の時代にいて当時の人々を批判するのは簡単です。しかし、戦時にあってしかも冷静に物事を判断する、そして実行するということが自分にできただらうかと思うと、全く自信がありません。

歴史を学ぶ意味はそこにあるように思います。

### 著名な歌人の短歌です 思いを想像してみてください

一隊の兵を見送りて かなしかり 何ぞ彼らのうれひ無げなる	石川啄木
戦に子を死なしめてめざめたる母のいのちを否定してもみよ	山田あき
中国に兵なりし日の五ヶ年をしみじみと思ふ戦争は悪だ	宮修二
海底に夜ごとしづかに溶けみつあらむ。航空母艦も火夫も。	塚本邦夫
帰ろうよ水島上等兵よぶ声のこだまに耐えて連れだてる二羽	玉井清弘
かかる世に替へにし われらの命かと 老いざる死者の声 恨みいふ	岡野弘彦
はるばると母は戦を思ひたまふ桑の木の実の熟める畑に	斎藤茂吉
書よみて賢くなれと戦場のわが兄は銭を呉れたまひたり	斎藤茂吉

